

# 男女共同参画社会づくりに向けての全国会議 平成24年6月22日 メルパルクホール東京

## ～ 男女共同参画による日本再生 ～

今年度の「男女共同参画週間」のキャッチフレーズは『あなたがいる わたしがいる 未来がある』。この大会には、推進委員4名・職員1名で参加しました。

内閣府からの報告(岡島敦子局長)で、震災から1年3ヶ月、避難所で生活する人達はガレキ処理で働く男性は有料なのに、炊き出しの女性は無料で働く、何か複雑な思いで聞きました。

基調講演は、「男女共同参画は日本の希望」と題して山田昌弘氏。日本における政治、経済分野での女性の進出は大変遅れている。因みに、フィリピンでは女性役員の割合が60%を占めると言う。

第2部パネルディスカッションは、「女性の活躍による震災復興と経済活性化について」。釜石市の旅館経営者、岩崎昭子さんは、震災当時、地域住民に呼び掛け、先陣をきって避難誘導を行った。宿の再建のみならず地域の復興に向けた取り組みを行い、平成24年1月5日より旅館営業開始。四大卒の学生が就職してきたこともあり、厚生年金制度や終身雇用の旅館を目指すと言いました。

松江市の老舗塗装店常務取締役、古志野純子さんは、若手従業員の早期退職が止まらず従業員不足。育児や介護休暇(30分単位の有給休暇)等を取り入れ、先輩社員からの卓越した技術伝承の仕組みも創った結果、若手社員が定着。技能士が倍増し、過去5年間の退職者がゼロという企業に成長した。まさにワークライフバランスの確立と言えよう。

次の世代への問いに「コンクリートの町づくりより人による町づくりを」と岩崎さん。「とにかく良く話し合う事が大切」と古志野さん。女性のしなやかさ、そしてパワフル。心に残るお二人でした。

(濱砂)



### ある日の 男女共同参画推進会議で

**A** 男女共同参画社会ってどんな社会なの？ わかりにくいよね。

**B** この間の宝井琴桜さんの講談で夫が仕事に行き詰って、会社を辞め、妻が交代して働きに出る話があったけど、アレが男女共同社会って事なの？

**C** 男と女が交代するのが男女共同参画って言うわけではないけど、性別で役割を決め付けるのはよくないわよね。

**D** 東日本大震災の復興対策で、先頭に立って指揮するのが男性中心であったために、子ども、高齢者、障がい者やそして女性たちの必要

としているものが伝わらず苦勞したという話を全国女性会議でたくさん聞いてきたわよね。

**C** 私の出た分科会でも、自治体の担当者が災害対策で「今は子どものことどころではない」と話していたということを書いていたわ。

**A** それって変よね。支援は弱いところほど手厚くされるべきだと思うのに、後回しにされるのはその切実さが通じてないからではないのかしら。

**B** 昨年の「まなざし」は「平時に出来ないことは災害時にもできない」というテーマで作成したけど、町の災害対策が女性や弱者の視点も取り入れられているかが大事だと思うよ。



**C** そうだね。三芳町役場の管理職が男性だけとはいわないけれど、福祉関係は女性が多く、財政や土木などは男性という偏りはあるよな気がする。

**E** 例えば、女性は男性に比べて背の低い人は多いし、荷物もたくさん持っていることが多いのに、公共施設のトイレの荷物かけは背伸びしてやっと届くようなところにあたり、荷物の置く場所に困ったりすることがあるでしょ。これなんかも設計の段階で女性の意見を取り入れていなかったのかも。逆に男性がどう考えているかわからないこともある。

**D** 男女共同参画って言うのは、一方的に物事を進めるのではなく、いろんな立場の人の意見を大事にしながら進めることなのね。

**E** 役場で行っている様々な事業が様々な人に配慮した内容になるか、声の大きい人たちのみで進められていないか、チェックしていくことも大切と思うよ。

**F** 2年ごとに町長に提出している「提言書」にそれらを盛り込むことも必要だし、セミナーや情報誌「まなざし」だけでなく、いろんな機会をとらえて広報していくことも考える必要があると思うの。



# 日本女性会議2012仙台

平成24年10月26日・27日

…きめる うごく <sup>ここ</sup>東北から…

## 『共に前へ』

二日間にわたる会議の中では、震災がもたらした限界を超える苦悩と困難から、一人一人がまた生きる力を育てられ、大きな復興へと希望をつないで前進されている力強い報告があふれていました。

被災地の皆さんはどのような生活をし、また、どうやって心の傷を埋めているのか、想像もつきませんでした。被災された人たちの困難を支えたのは女性であったこと。女性には困難を希望に変える力強いパワーがあること。避難所や仮設住宅では前を向いて、みんなの持っているアイデアからエコたわしなどを作成し、寄り添って日々生き抜いていること。そして特に災害時における男女共同参画の社会への必要性が浮き彫りにされました。全国からの参加者は2千人。奥山恵美子仙台市長をはじめ、登壇者、スタッフ、大勢のボランティアの明るい笑顔が“共に前へ”と呼びかけました。“女性の連帯で変革を推進していこう！”という力強いメッセージを受け止めてきました。(山崎)

## 特別プログラム \*\*\*\*\* (10/26 1日目) \*\*\*\*\*

### 「女性たちが語る3.11 ～これまでと今と～」

水野実行委員長は「あの日、3.11を境に私たちの日常は大きく変わった。多くのものが失われ、既存の枠組みは崩れた。そして極限状態の中、普段隠れているたくさんのことが浮き彫りになってきた」と挨拶された。その極限状態とはどんなものであったか、5人のパネリストの体験は生々しく、会場全体がシーンと静まりかえっていた。地震と津波に遭遇した中で助け合って日々を過ごした南三陸ホテルの女将、震災翌日に発行された河北新報を見て初めてその実態を知った住民の驚き、被災地で子どもの死に直面した女性記者の戸惑い、地震と追い討ちをかけた放射能汚染の中、女子大生をどう守るか奔走した女子大の先生、阪神・淡路大震災で被災し、以後支援活動を続けている女性、子ども支援プラザでは情報・交通がストップした中、自己判断で出来るところからやり始めることが、復興の第1歩と話す館長。意思決定の場に女性の視点は欠かせない。今後の課題として、復興の遅れに苦しみ、風評被害にも悩まされ、多くの企業が廃業に追い込まれている現状。継続的な支援が必要ということが実感として感じられた。(横山)

## シンポジウム \*\*\*\*\* (10/27 2日目) \*\*\*\*\*

### 「たまり場でのおしゃべりから…」

北海道・釧路の地域づくりは、たまり場から。パネリストの日置真世さんが言うたまり場とは、どんなことでも、ひとりで抱え込まずに発信し、協力や助け合いを求めたり、連携することが重要と語る。彼女は、学生結婚をし出産した。長女が重度の障害を持っていたため一度も社会に出ることがありませんでした。にもかかわらず、障がい者支援、介護支援、若者の就労支援、子育てカフェなどネットワークを拡大し、地域活動の幅を広げ現在、事業拠点250数箇所、職員170名以上に成長させたと云う、発表が心に残りました。(鈴木)



「特別プログラム」

別冊で女性会議報告を作成しました。役場・公民館窓口にありますので、是非お読みください。

## …分科会紹介…

- 第1分科会 復興・防災に女性の声を ～出す、ひろく、生かす
- 第2分科会 「困難すころく」でみる女子の生きづらさ
- 第3分科会 役に立つ「人権」の話
- 第4分科会 東日本大震災・原発事故と母子支援  
～妊産婦と赤ちゃんをどう守れるか
- 第5分科会 企業でキャリアを積むということ  
～わたしたちのネクストビジョン
- 第6分科会 支援から交わりへ ～「外国人妻」が地域住民になる日

2013日本女性会議は、  
**いきいき わくわく**  
**小さなまちから新たなステージ!**  
をテーマに四国徳島県阿南市で  
開催されます。